



イラン経済 (10月1~31日)

1. 10月1日付『ハムシャフリー』紙

イラン統計センターは、ヒジュラ太陽暦 1392 年シャフリーヴァル月 (2013 年 8 月 23 日~9 月 22 日) における年間インフレ率が、37% (前年同期比 1.4%減) になったと発表した。

2. 10月2日付『テヘラン・タイムズ』紙

シェルのピーター・ヴォーサーCEO は、「長期的には、イランの石油・ガス資源を開発し、世界の需要に見合ったものにしなければならない」と述べた。

3. 10月3日付『ドンヤーイエ・エグテサード』紙

イラン中央銀行によれば、2012 年秋季における国内工業分野の成長率はマイナス 13%となり、プラス 10%であった前年同期比と比べ、大幅に落ち込んだ。建設分野も、2011 年秋季のマイナス 14%から、2012 年秋季はマイナス 25.5%となり、大幅に減少。

4. 10月5日付『ジウムフリーイエ・エスラーミー』紙

イラン中央銀行は、ヒジュラ太陽暦 1392 年シャフリーヴァル月 (2013 年 8 月 23 日~9 月 22 日) における年間インフレ率が過去 18 年間で最高の 40.1%であると公表した。通貨供給量は 5,000 兆リヤールであった。

5. 10月8日付『シャルグ』紙

イラン・ホドロの主力車種「サマンド」がロシアの輸入許可を得た。「今後、将来的に、年間 1 万台のサマンドがロシアに輸出されるだろう」とイラン・ホドロの副社長が述べている。

6. 10月10日付『ハムシャフリー』紙

IMF が 188 カ国を対象とした 2013 年経済予測において、イランのインフレ率は、世界第一位の 42.3%となった。2012 年におけるイランのインフレ率は 30.5%で、世界第 4 位であった。一方、2013 年末における GDP 成長率予測では、イランはマイナス 1.5%。

7. 10月14日『ジウムフリーイエ・エスラーミー』紙

新たに就任したアリー・マージェディー石油省次官 (国際・商務担当) は、「米国企業がイラン石油市場で活動することに何ら制限は無い。P5+1 の核協議の結果次第では、(米国企業を含めた) オイル・メジャーがイラン市場に参入することもありうる」と述べた。

8. 10月19日付『アブラーレ・エグテサーディー』紙

イラン統計センターの資料によると、2004年から2012年の8年間で、イランは260万～300万人（うち、15～29歳の若年層は170万～220万人）の失業者を生んだ。率にすると、全体が12.2%、若年層は24.5%に上る。

9. 10月19日付『ケイハーン』紙

サウス・パールス・ガス田フェイズ12の生産が来月開始される予定である。現在、工事進捗率は92.6%に達し、生産されるサワーガスは精製施設を経由し、今年の冬には国内のガス・パイプラインに日量5億cfが供給される見込み。

10. 10月20日付『イーラーン』紙

イランは11月30日に、国際自動車産業会議をテヘランで開催する。メルセデスベンツ、ゼネラルモーターズ、トヨタ、クライスラー、フォード、フォルクスワーゲン、フィアット、ヒュンダイらが同会議に招待されている。

11. 10月23日付『イラン・ニューズ』紙

ロウハーニー大統領は、前政権の銀行などからの借入額が1,800兆リヤール（約720億米ドル）に達するとして、「政府の活動は完璧なものではない。しかし、その活動を巨額の債務が妨げている。来年（ヒジュラ太陽暦1393年、2014年3月21日～2015年3月20日）の予算では国会の協力を得ながら合理的な予算を組み、債務の減少に努める」と述べた。

12. 10月26日付『テヘラン・タイムズ』紙

ジャヴァーディーNIOC総裁は、サウス・パールス・ガス田開発の重要性を訴え、その開発の遅れにより、イランは、1日当たり1億米ドルの損失を計上していると述べた。